

(第7号様式の2)

事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてください。)

1 事業名	那覇西湾岸地域を中心とした在沖ネパール人と協働で作る災害に強いまちづくり～「Aciton」「Message」「Meals」「Asist」～
2 事業期間	2024年5月～2025年2月

3 事業内容	具体的な内容（いつどこで何を実施したか等） 5月25日（土）AMMAモーニング 概要：那覇市の防災危機管理課から津波警報発令時の避難の仕方や台風シーズンに気をつけてほしいことなどのレクチャーを受けた 実施場所：若狭公民館 参加者：ネパール人学生25名、那覇市防災危機管理課1名、若狭公民館職員1名、豊見城市上田山川自治会1名、沖縄国際人材支援センター1名、なは市民協働大学院2023年度卒業生3名 6月22日（土）AMMAモーニング 概要：那覇市既存の防災食の試食、災害時に役立つ紙食器作り 実施場所：松山公園クニダテラス側 参加者：ネパール人学生18名、ボランティア2名、那覇市防災危機管理課1名、沖縄国際人材支援センター1名、なは市民協働大学院2023年度卒業生2名、琉球大学学生1名 7月27日（土）AMMAモーニング 概要：カードゲーム（防災カルタ）を活用した台風対策の学習 実施場所：若狭児童館 参加者：ネパール人学生11人、ボランティア4名、中国西交物浦大学日本語教師、沖縄国際人材支援センター1名、若狭児童館（児童）5名 8月24日（土）AMMMモーニング 概要：那覇市生涯学習計画のアンケート調査、防災カードゲームを通じた地元学生との交流 参加者：ネパール人学生6名、ネパール人親子2組（母親2名、子ども3名）、ボランティア2名（福岡教育大学、日経ビジネス専門学校）、那覇市生涯学習課2名 9月28日（土）AMMAモーニング 概要：防災スゴロクを活用した防災学習 実施場所：若狭児童館 参加者：ネパール人学生11名、ボランティア1名、那覇市民1名 10月10日（木）なは市民協働大学 概要：令和6年度なは市民協働大学にて事業説明及び受講生からのインタビュー、意見交換を行った 実施場所：なは市民活動支援センター 10月19日（土）AMMAモーニング 概要：防災カルタを活用した防災学習 実施場所：若狭児童館 参加者：ネパール人学生4名、令和6年度なは市民協働大学5名
---------------	--

	11月2日（土）AMMAモーニング 概要：上山中学校開催された防災キャンプへの協力及び参加 実施場所：上山中学校 参加者：天妃小学校区まちづくり協議会、その他関係者及び地域住民 大人35、中学生17、小学生2、未就学生3 12月1日（日）AMMAモーニング（アチビーフェスへの参加） 概要：開催200回を記念したアチビーフェスにAMMAモーニングの一環として参加協力をした。会場ではAMMAの活動紹介を行った。 実施場所：若狭公民館 参加者：ネパール親子1組（アチビーフェスへの参加者109人） 12月20日（金）ネパール沖縄親善夕食会の企画運営 概要：沖縄県立図書館へのネパール語図書の寄贈及びネパールコーナーの設立を記念したネパール大使館主催による夕食会の企画運営を行った 実施場所：料亭那覇 参加者：ネパール駐日大使ドゥルガ・ハバドゥール・スベティ氏、沖縄県副知事照屋善実氏、那覇市市長知念寛氏、その他55名 12月28日（土）AMMAモーニング 概要：ネパール料理を通じた交流、沖縄通りの防災マップの配布 開催場所：若狭公民館 参加者：ネパール人学生40名、令和6年度なは市民協働大学修了生2名、那覇市市民8名 1月18日（土）防災食アレンジレシピミーティング 概要：KUMARI Nepali dining CURRY houseと協働での防災食アレンジレシピについて打ち合わせを行った 実施場所：KUMARI Nepali dinig CURRY house（浦添市勢理客1丁目20-21） 相手：KUMARI Nepali dinig CURRY house 1月26日（日）AMMAモーニング 概要：防災カルタでの防災学習 開催場所：若狭児童館 参加者：ネパール学生1名、ネパール親子2組（子ども4名）
--	--

4 達成目標と達成度	達成目標（事業計画書と連携させる）	目標数値	実績値	達成度（%）
	・AMMAモーニング	・10回	・10回	・100%
	・防災食アレンジレシピの開発	・2レシピ	・1レシピ	・50%
	・防災紙芝居の作成	・1セット	・1セット	・100%
結果に至る理由、気づき、検証等				
・沖縄ネパール友好協会や日本語学校といったネパールコミュニティの当事者を通じて繋がりがあったため、ネパール人学生への周知を円滑に行うことができた。また、ほぼ固定の日時での開催であったため、比較的認知もされやすく8月頃から固定の参加者いた。 ・参加者からの口コミ効果もあり、呼びかけをすると定員を超えた参加の日も合った。 ・防災食のアレンジレシピについては、複数回ミーティングで活用していたレストランの協力のもと実施することができた。 ・2レシピを作成予定だったが、時間及び物価高騰によるコストが追加で必要であったため、1種類になった。 ・当初、ラジオでネパール語の音声を読ませようとしていたが、ラジオに馴染みがない在沖ネパール人には効果が薄く、また、日本語習得のレベルの差もあることから文字を使わない防災学習ツールに辿り着くことができた ・防災紙芝居については、若狭児童館の協力のもと完成することができた ・助成を受けた5月頃と比較して、さらにネパール人の人口は増えており、外国人相談窓口といった多様なトラブルや相談事に対応できるワンストップの場やツールの必要性を感じた ・今後、より実態調査の把握のための調査及び検証をしていく必要がある				

5 事業の成果	事業を実施したことで得られた結果 ・対象者に及ぼした影響 ①那覇西湾岸地域に起こりうる災害の認知及びその対策について学ぶ機会を設けることで、沖縄で起こりうる災害の性質を理解することができ、また、事前に台風シーズンの対策をすることができた。 ②定期開催をしたことで顔見知りが増えていき、地域で見かけた時に会話をするような関係性の構築ができた ③事業前にネパール人は魚介系が食べられな好まないことは把握していたが、それ以上に香辛料といった刺激物が食事において重要であることがわかり、防災食版アチャール（ネパールのお漬物）を添えることで那覇市既存の防災食を食べられるようになった。 ・連携機関、協力者に及ぼした影響 ①KUMARI nepali dinig CURRY houseと合同で防災食のアレンジレシピに携わることができ、ネパール人コミュニティ内でもネパール人向けの防災食の重要性を共有することができた。 ②若狭児童館で定期開催をしたことで、若狭児童館の利用者 teamAMMAの活動の周知及び地域課題について共有することができた ③令和6年度なは市民協働大学で事業の概要説明や受講生との意見交換を行うことで在沖ネパール人が抱える課題などを共有することができた。 ④令和6年度なは市民協働大学の受講生がボランティアに繋がった ⑤那覇市まちづくり協働推進が主催のボランティアマッチングカフェへの参で那覇西湾岸地域の地域課題を共有することができた ⑥また、ボランティアマッチングカフェへの参加をきっかけに県内在住の大学生がボランティアとして繋がった ・地域、コミュニティに及ぼした影響 ①地域で開催された防災キャンプやアチビーフェスなどに参加し、地域に対してネパール人コミュニティの存在を周知することができた ②AMMAモーニングを開催することでネパール人が抱える災害時における課題を地域で共有することができた ③拠点としている、若狭児童館の子どもたちとネパール親子の子ども達との交流にも繋がった
---------	--

6 次年度以降 の展開	(ビジョンを見据えたうえで次年度以降に予定している展開) ①地域幸福度 (well-being) 指標調査の実施 在留外国人の人口が増加傾向にあるが、増加の要因についてはまだ言及されていない。したがって、デジタル庁が実施している地域幸福度 (well-being) 指標調査を今後那覇市 (現在調整中) と進めていき、彼らが那覇市を選択し、住み続けているのかを調査をもとに検証していきたい。 【参考】 デジタル庁 “デジタル田園都市国家構想実現に向けた地域幸福度 (well-being) 指標の活用”. 地域幸福度 (well-being) 指標調査. 2025-2-16. https://well-being.digital.go.jp/ ②那覇市でのキャリアフォローについて 国も外国人の受け入れについて積極的である今、那覇市の外国人人口のより増加傾向なると考える。受け入れ側として衣食住のといった最低限のインフラを整備することはもちろんであるが、彼らがどのようなスキルや経験を持って入国しているのか、また、那覇市でのキャリアプラン (人生設計) をどのように考えているのかは把握されていない。また、その調査もない。定住を希望する場合、選択した土地での人生設計ができるか否かが肝になることから、上記の地域幸福度 (well-being) 指標調査を含めた調査で彼らのキャリアプランを把握していきたい。また、把握した先では、関連のある企業や行政、関係機関に繋げていきたいと考える。
------------------------	---

7 実施した事業全体への自己評価とその理由

自己評価(5段階評価)

当てはまるところに○をつけてください。

	とても良かった 5	良かった 4	まあまあ良かった 3	少し良かった 2	全く良くなかった 1
1 課題設定は良かったか		☒			
2 解決策として良い手法だったか		☒			
3 自団体の実施体制は良かったか			☒		
4 他団体との協働体制は良かったか		☒			
5 対象者への周知は良かったか	☒				

②上記の結果となった理由について

課題設定と解決策については、昨年度受講していた「なは市民協働大学院」からの企画を実施する形であったため熟考した課題設定ができた。しかし、実施していく中で運営の人手不足などが出てきた。

他団体との協働体制については若狭児童館をはじめ、若狭公民館など地域の関係機関との協力体制を組むことができ、地域イベントなどにも参加することができた。

対象者については、ネパールコミュニティとの繋がりを活かした周知を行うことができた。

8 市への要望・ 欲しい支援等	なは市民活動支援事業に係る下記の項目に対して (①事業説明会 ②個別相談 ③募集期間 ④広報支援 ⑤オープンデータ 等) ①事業説明会 とても丁寧で問題ありませんでした。 なは市民協働大学院でも助成金の案内を今後しても良いと思いました。 ②個別相談 事前に相談ができ、提出前に事業について再認識することができた。 ③募集期間 特に支障なし。 ④広報支援 マッチングカフェに声をかけていただき、ボランティアへと繋がったのでとても助かりました！ ⑤オープンデータ 在留外国人に関するデータに関しては、今後も那覇市と協力して実施できればと考えています
--------------------------------	--